

ねらい ▶▶

- いわゆる「寝た子を起こすな」論では、差別は解消しないことを知る。
- 他者への共感や想像力をもつためにも、社会の現実についての正しい知識と理解が必要であることを理解する。
- 「知らなければよかった」ではなく、知っていることでよりゆたかにつながろうとするあり方をめざす。

キーワード

「寝た子を起こすな」論、共感と想像力、ゆたかにつながるあり方

準備物

- ワークシート①「統計ラインアップ」1人1枚
- ワークシート②「寝た子を起こすな」? 「知らぬが仏」? グループに1枚*A3に拡大して使用
- ワークシート③「よりゆたかに出会うために」1人1枚
- A4サイズの紙に0%から100%まで10%きざみに数字を書いたもの
- マーカー1人1本 ●セロテープ ●ホワイトボードと専用マーカー(黒板も可)

プログラムの流れ

- | | | |
|-----|-------------------------------|--|
| 5分 | 1. 趣旨とルールの説明 | ●ねらいの説明など。 |
| 25分 | 2. 統計ラインアップ | ●「2010年(平成22年)人権問題に関する府民意識調査」のデータから差別意識の現状を知る。 |
| 30分 | 3. 「寝た子を起こすな」? 「知らぬが仏」? | ●「知る」か「知らない」かが差別の現実にとどのように影響するかを考える。 |
| 15分 | 4. 「そっとしておく」ってどういうこと? | ●「そっとしておく」が意味することについて整理する。 |
| 15分 | 5. よりゆたかに出会うために | ●よりよい出会いをするために自分にできることを考える。 |

時間

詳細な手順

ポイント

スタート

1 趣旨とルールの説明

5分

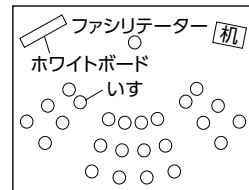


今日はワークショップ形式で学んでいきます。ワークショップというのは、講師が答えを持っているのではなく、この場にいるみんなでやりとりしながら、考えを深めていく学び方です。

人権というと、難しく思われる方も多かもしれませんが、できるだけ身近なところから考えていきたいと思っています。正解があるわけではありません。みなさんには、ふだんの言葉で、自分の思うことをおしゃべりしていただければと思います。

会場設営の例

[半円形]



※会場の形は、アクティビティによって変えやすいよう、机なし、イスのみで設営しておく。机は後で使うときに出しやすいよう、横に置いておくとうい。

そのために、3つ、お願いがあります。この場では、「協力・尊重・守秘」をルール(約束)としたいのです。

●「協力」「尊重」「守秘」と板書する。



「協力」とは、お互いに学ぶために協力しましょう、ということ。「尊重」とは、それぞれのあり方や意見・思いを尊重しましょう、ということ。「守秘」とは、ここで出された個人の経験や考えはこの場にとどめる(外に持ち出さない)、ということです。

みなさん、人権について、「相手の立場に立って考えよう」「思いやりの心をもとう」というフレーズにふれたことがあると思います。一方、講演会などで差別の現実が語られると、「知ったことでかえってかまえてしまう」といった感想が時折あります。想像力や思いやりの心と、現実を知ることは、どういう関係にあるのか、今日は考えていきたいと思います。

5分
経過

2 統計ラインアップ

25分

説明と設営3分、クイズ実施15分、グループわけと感想7分

●「0%」「10%」…「90%」「100%」と書いた紙を貼ったイスを、1列に並べる。

統計ラインアップ



ウォーミングアップに、数字のクイズをします。今から、2010年(平成22年)に大阪府が行った「人権問題に関する府民意識調査」の結果について、予想した数字のところに移動してみてください。テストではありませんので、気楽にやっていたいでけっこうです。

●ワークシート①の問題を読み上げ、参加者が移動してから結果を紹介する。

●すべての問いが終わった後に、ワークシート①を1人1枚配付する。

グループに分かれて感想の共有



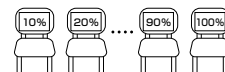
では、4人程度のグループに分かれて、やってみた感想を話し合ってみてください。意外だった数字はあるでしょうか。

どんな感想が出たか、全体にも共有してください。



人権について、人々がどう思っているのか、「意識調査」から見える現実を知っていただきました。人権について話し合うときには、「～だろう」「～に違いなし」といったイメージではなく、今の意識の実際のことを知っておくことも大切です。

• イスの数に余裕がなければ、机や壁に紙を貼る、板書する、などでもよい。



• 時間があれば、すぐに結果を紹介するのでなく、なぜその数字を予想したかをインタビューしながら進めてもよい。


• 実施にあたっては、ワークシート①の注にあるウェブサイトか報告書冊子を参照して、元データを確認しておくことよりよい。


3 「寝た子を起こすな」？「知らぬが仏」？

30分

説明5分、ワークシート記入10分、全体共有10分、コメント5分


グループでワークシート記入

 先ほどの「統計ラインアップ」の最後の設問にあった、「そっとしておけば差別はなくなる」という考え方を「寝た子を起こすな」論と言います。意識調査の結果によると、同和問題に関しては約3分の1の人が「知らせない方がいい」という考え方を支持しているのです。一方で、現実には差別はありますし、「差別意識が残っている」と思っている人も7割近くいます。そうした現実もふまえたうえで、同和問題について、知らせる場合と知らせない場合とで、どのようなことが起きるかを考えてみましょう。


 タテ軸に「知る・知らせる」「知らない・知らせない」、横軸に現状を「よりよくする（改善する）」「よりよくしない（悪化させる）」、という2つの軸をとり、それぞれに起こるかもしれないことを想像して書いてみます。差別のある現状が、どのようになっていくか、「知ることによってよくなる」「知らずにいることによってよくなる」「知ったことで今よりも悪くなる」「知らないために問題が起きる」の、それぞれについて、できるだけ具体的に考えてみましょう。

●ワークシート②とマーカーを配り、書き方を板書し、説明する。グループで話し合いながら書き込んでもらう。

全体で共有

 書いてみて、気づいたこと・発見したことを、全体で共有しましょう。

コメント

 同和問題について、「知らせない方がいい」「そっとしておけば差別はなくなる」、と考える人は、ワークシート②の右下を想定していると考えられます。「寝た子を起こすな」というのは、「せっかくおさまっているものを、余計なことをして問題を起こさないほうがいい」という意味ですが、同和問題については、差別の現状は「おさまっている」とはいえません。そして、知ったことで問題が起きるとしたら、どんな問題が起きるのでしょうか？

また、ワークシート②の左下には、知らないうちに当事者を傷つけてしまう、といったことがあるかと思いますが、これは、「知らぬが仏」とでもいえるのでしょうか。このことわざは、「事実や真相を知らなければ、平穏でいられるということの譬え。また、実態やことの重要性を知らずにのほほんとしている人を嘲笑することば」だそうです。同和問題は、私たちの暮らす社会に現にある問題です。知らず知らずのうちに、誰かを傷つけたり差別に荷担したりすることを望む人はいないでしょう。

このようなことは、同和問題だけではなく、他の人権課題にもあてはまるといえます。知らなかったら傷つけたり差別したりせずにいられるわけではないのです。

<意見の例>

	知る・知らせる	よりよくする(改善する)
よりよくしない(悪化させる)	知ったことで差別してしまう	差別解消にむけてとくむ
	知らないうちに当事者を傷つけてしまう	何も意識しないので、差別的なことをしない
	知らない・知らせない	

- 意識調査の結果をふまえ、「現状として、まだ差別意識がある」ことを前提に話し合いをすることに留意する。
- ワークシートに書き込む際には、個人の間関係の中で起こること、社会的な状況として起こることのいずれについての意見でもかまわない。いろんな角度から考えてみるようにうながす。

4 「そっとしておく」ってどういうこと?

15分

説明3分、ペアでの話し合い3分、全体共有6分、コメント3分

ペアで話し合い



もう少し、「そっとしておく」について考えてみましょう。

「そっとしておく」というのは、やさしさや配慮のあらわれであるようにも思えます。

とはいえ、何もしないことではなく、「知っている人」が「知らせようとしないうこと」であり、「知らない人」が「知ろうとしないうこと」である、ともいえます。それは、あえていうなら、「タブー視する/なかったことにする」ことにもつながります。

では、やさしさや配慮で「そっとしておく」ことと、「タブー視する/なかったことにする」の間には、どんな違いがあるのでしょうか。

たとえば、ある職場でセクハラが起こったとします。そのことを知った人は、当事者、とくに被害者の心情を思いやってそっとしておこうとします。それが当事者にとって「配慮」や「プライバシーの尊重」につながる場合と、単に「なかったこと」にされたと感じられる場合とは、どのような違いがあるのでしょうか。対比させて考えてみましょう。

ペアで少し話していただき、全体で共有しようと思います。

全体で共有

- 右図の対比表を板書する。ペアで話し合う時間を3分程度とり、発表してもらったものを板書しながら全体で共有する。

コメント



相手を傷つけないために、事態をより悪化させないために「そっとしておく」ためには、まずは、その事実についてきちんと知っておくことが必要です。でなければ、知らないために誰かを傷つけたり、知らぬままに問題に荷担してしまったりする可能性があります。知ろうとしないうことを「そっとしておく」ということは、「見て見ぬふりをする」「なかったことにしようとしている」といわれてもやむをえない態度だといえるのではないのでしょうか。

- セクハラの場合、同和問題の例に限らず、一般的に「そっとしておく」ことが、配慮・尊重につながる場合と、タブー視や、なかったこと扱いにつながる場合について、意見を出してもらおうとよい。

<対比表>

そっとしておくが…	
配慮・尊重につながる	タブー視する・なかったことにする

5 よりゆたかに出会うために

15分

説明3分、ワークシート記入5分、ペアでの分かち合い5分、コメント2分



ここまで、「知らない」「知ろうとしないうこと」のあやうさについて考えてきました。最後に、知ることの積極的な面について考えてみましょう。

ほとんどの人は、同和問題を知ったからといって、ワークシート②の左上のように差別をするようになるわけではないと思います。とはいえ、右上のように、知ったことで現状をよりよくすることにつなげるのは自分には難しい、と感じている人も多いのかもしれませんが。

身近で具体的なことで考えてみましょう。

今日この研修で、みなさんはすでにある程度「同和問題を知っている」わけでは、そのことを周囲の人との出会いや関わりにどのように生かすことができるでしょうか。あなたの周りには、話題にしていないから知らないだけで、もしかすると同和問題をよく知らずに差別的な意識を持っている人がいるかもしれません。また、同和地区出身者がいるかもしれません。これまで話し合ったことをふまえて、日常の会話や人との関わりにおいて、これからどんな態度や行動をとろうと思うか考えてみてください。

「やめたいこと」「変えたいこと」「はじめたいこと」の3つのアプローチと、「意識の中で心がけとして」「具体的な態度や行動として」という2つの切り口で考えてみましょう。

個人でワークシートに記入

●ワークシート③を配り、個人で記入してもらおう。

ペアで共有



書いたものを、ペアで分かち合ってください。

コメント



本来、人と人が出会い、関係を深めようとするならば、お互いをより知ろうとすることはあたりまえのことです。同和問題やさまざまな人権問題について知ることは、ときに悲しい、厳しい現実を知ることであるため、気が重く感じることもあるかもしれませんが、けれど、よりゆたかに出会っていくためにこそ、積極的に知る姿勢を持っていただきたいと思います。

• 6つのマスの全部に記入しなくてもよい。小さなことでもいいので、思いついたことを書くよう、うながす。

• 発表してもらわなくてもよい。